

UAEL

URBAN AMENITY ENGINEERING lab.

No.15
2016. 5

1. 表紙
2. 巻頭言
3. 卒業終了展示・石脇関連
4. 卒業論文
5. 卒業設計・新メンバー紹介
6. 修士論文・4年研究テーマ
7. 学科ニュース・卒業生メッセージ
8. OB・OGの今、information



「Ristorante Fontana(京橋川オープンカフェ)」 撮影：山口邦雄



秋田県立大学 建築環境システム学科 計画学講座 都市アメニティ研究室

巻頭言

本当の地域貢献とは？

由利本荘市で全庁統合型時空間地理情報システムの導入・運用が開始されてから 10 年間に経過した。今も全庁的に活用され、幅広い業務分野で役に立っていることを喜ばしく思う。職員や地元業者が、当初からの理念を守り、自立して運用できるようになったからと言える。思えば十年前、市として導入するかどうかの決断を下すとき、私に課せられた約束は「絶対によそへ行かないこと」であった。

世間一般の大学人には勝手な人もいて、論文を書くため、更に露骨なことには出世のために役立つものは周囲を焚きつけるが、その後にハシゴを外して去ってしまうケースも無いわけではない。その実状を自治体の皆さんは知っているのだから、私が中途半端な段階でいなくならないことを求めたのであった。

その時に約束を交わした職員の皆さんも退職しつつある。世代交代が進んでおり一段落を感じる。本当の地域貢献は、先進国の発展途上国への援助と同じで、「自立を促すこと」にあると思う。もう、自分たちでやっていける（大学人のテコ入れは要らなくなる）というステージまでお付き合いして、初めて地域に貢献したと言えるのではないだろうか。

話題は変わるが、最近、卒業生達が仕事で責任を負うようになってきたのを知り、頼もしく感じている。より良い仕事のため上司に諫言するケースもあるようだ。いずれは人の上に立つようになるだろうが、今はまだ上から指示される方が多いのだろう。

困る上司のタイプの一つは「何かと威張る上司」だと聞く。偉いから威張るのか？否、本当に偉い人は威張らない。威張る人は「権威主義的パーソナリティ」と言って、強い者には頭を下げ、弱い者には容赦なく攻撃する、本当は弱い心の持ち主だ。そうは言っても威張る姿に頼もしさを感じるだろうか？もし、部下に厳しくても自分の間違いは笑ってごまかすか、無視を決め込むようなら要注意だ。そんな器の人物は、いざというときに部下を守らない。あなたを守るのは、あなただけだ。胸を張り、堂々としていよう。

浅野 耕一（あさの こういち）
建築・都市アメニティグループ
都市アメニティ工学分野



まちづくり協定の審査

●大門・本町通りのまちづくりの枠組み

本荘中心市街地の大門・本町通りは、27m 幅員の都市計画決定を 18m に縮小変更し、同時に沿道景観形成に向けて住民たちが検討してきた内容を法定の地区計画として計画決定している。さらに、住民のまちづくり像を実現していくため、まちづくり協定を住民間で締結し、建築計画案を地区計画の届け出の 30 日前に協定委員会に提出してもらうことにしている。

●住民による審査の開始

現在は、沿道対象敷地の測量が行われ、用地交渉も進んできた段階である。道路拡幅工事は 2017 年度からであるが、既に建物の除却が始まっており、土地の売買も活発化してきたと聞いている。こうした中、早くも第 1 号として商業建築の届け出が 12 月下旬に、第 2 号として住宅建築の届け出が 1 月下旬に出された。いよいよ、委員会による協定内容への適合性の審査が始まった。

●計画管理、協定管理の視点

審査の結果、いずれの計画も協定内容に合致した内容であり、一安心であった。

しかし、住宅建築の場合はフェンス等の位置と構造を定めているものの、道路整備前にフェンス設置をした場合は道路拡幅工事の際に側溝整備のために民地側 30cm ほどを掘り起こすことになり、いわゆる二重投資が発生する。当然すぐに整備しないことが想定されるため、2017 年度の拡幅工事後にフェンス等の整備を確実にを行うための担保措置が必要ではないか、との議論が生まれた。さらに、拡幅により沿道側の建物が除却されたまま積極的な土地利用のない土地に対しては、フェンス等の設置による街なみの連続性確保の規定が地区計画でもまちづくり協定でも適用されないという発見があった。計画立案時や協定検討時には思いも及ばなかったことである。こうした事態への対応のためにも、計画管理、協定管理の視点が欠かせない。

審査終了後、次はどのような議論が生まれるか？新たな発見があるか？と思うと、久しぶりに脳内ドーパミンが放出されるのを感じた夜だった。

山口 邦雄（やまぐち くにお）
建築・都市アメニティグループ
都市アメニティ工学分野



卒業修了展 in カダーレ



経営システム工学科との共同開催

2月19日と20日に由利本荘市のカダーレで、経営システム工学科経営情報システム研究室、生産情報システム研究室及び都市アメニティ工学研究室の合同開催という形で卒業・修了展が行われました。

当日は論文の発表の他に、夏合宿で携わったイベント「石脇夕涼み」についての発表を行い、お世話になった石脇地区にお住まいの方々にも来訪していただき、盛んな議論となりました。

このようにとても有意義な会となったのは、ご協力いただいた皆様、来訪者の皆様のお力添えのお陰です。

貴重な時間を過ごさせていただき、本当にありがとうございました。

卒展係：須田一陽



地元のケーブルテレビ局の方の取材を受けました。



皆さんの意見を聞くことができました。

多くの方に来場していただきました。



地域の方々、協力していただいた学生の皆さん、助言を頂いた先生方のお陰で、盛会に終わることができました。

石脇ひな街道



本学が位置する秋田県由利本荘市では、『由利本荘ひな街道』というイベントが毎年春先に開催されています。

江戸時代に北前船が寄港する河口港として栄え、様々な物資と人が行き交っており、当時の武家や商家に伝えられたおひな様が、今も数多く残されています。

このような歴史あるおひな様や、けっして古くはないけれども家で大切にされてきたおひな様など、約1,000体を市内の各所で展示・公開しています。

その中のひとつの、3/12(土)から3/21(月)に石脇公德館で開催された「石脇ひな町めぐり」に行ってきました。館内に入ると所狭しと並べられたひな人形を見ることができました。どれも気品高く可憐さが伝わってきます。また期間中は、我々都市アメ研の夏合宿のパネルを展示していただきました。

都市アメ：小島寛之

石脇プロジェクト

石脇のまちづくりをお手伝いする学生主体の団体「石脇通りまちづくり研究会(通称：石研)」は、2015年7月に発足しました。石脇にある齋彌酒造店様のご協力のもとで、空き家である田屋を対象に空き家利活用モデルの検討・提案をしています。

昨年11月には「ギャラリー田屋」を開催し、過去に実施した石脇に関する調査アーカイブや、本学の建築環境システム学科で制作された建築模型の展示をしました。また、子供向けのワークショップとして「おりがみケンチク」も行いました。石脇通りの1/300敷地模型を住民の皆様と囲み、様々なお話と今後の展望をお話できました。

石研HP (<http://tessi13.wix.com/ishiwakido-rimatiken>)
スタッフ募集中です。

苅谷ゼミ：手嶋恵佑



笛太鼓の様子



飾り付けされたおひな様



田屋の清掃中



石脇地区の模型展示



卒業論文・設計

今年度の卒業論文、卒業設計を紹介します。卒業生からそれぞれコメントをいただきました。

卒業論文

天野 玲奈 「全庁統合型時空間地理情報システムによる情報共有が業務時間の短縮に与える効果に関する研究」

荒生 竜也 「歴史的街なみを対象として活動するまちづくりNPOの事業に関する研究
—東北5県を対象とした調査から—」

卒業論文という機会を通すことで、自分と向き合い直すことができました。

栗野 栞 「歴史と風土を活かす継承型住宅の形成経緯と取り組みの研究 —東北6県の典型自治体を対象として—」

様々な苦悩がありましたが、多くの事を学べたのでよかったです。

菅谷 美聖 「栃木市歴史的町並み景観形成地区の取り組みに関する考察
—街なみ環境整備事業と重要伝統的建造物群保存事業の関係に着目して—」

卒業設計

池 隆裕 「酒蔵再生計画～新たな時を刻み、まちにひろく～」

小玉醸造やその周辺地域をさらに活性化する自分なりの提案ができたと思います。

「歴史と風土を活かす継承型住宅の形成経緯と取り組みの研究

—東北6県の典型自治体を対象として—

栗野 栞
指導：山口邦雄

日本の住宅は、かつてその地域で採れた素材で作った一定の地域に大きな形態の違いはなかった。しかし、生産、物流、構法による近代化は、形態の多様化を推し進め、その結果、街並の統一感は徐々に失われてきた。それへの対応として、歴史と風土を活かした街並を再生するために建築行為等への制度等を作り、統一した街並へ誘導する動きが広まっている。そこで、歴史的街並の再生手法として継承型住宅の取り組みに着目する。継承型住宅に関する既往研究は、デザインと住宅形態の研究がある。しかし、継承型住宅の形成経緯や詳細な取り組みの動向を分析した研究は見受けられない。

以上のことから、本研究では典型自治体における継承型住宅の形成経緯と取り組み実態について明らかにする。また典型自治体から1自治体を選定し、継承型住宅の取り組みについて詳細に把握・分析し、継承型住宅の取り組みの在り方についての知見を得ることで、今後の継承型住宅の推進に寄与することを目的とする。対象は、東北6県で2014年度までに地域住宅計画を策定したことのあり、継承型住宅に取組む典型自治体の抽出をアンケート調査及び資料調査で行った。

表 1. 継承型住宅の形成経緯

	きっかけ	きつかけ	
		他計画・整備 参照	意識向上 先行
行政計画 決定	三春町	金山町	
住民同意 決定	横手市	—	

表 2. 新築増改築及び色彩変更割合

	新築[%(件/年)]	増改築[%(件/年)]	色彩変更[%(件/年)]	計[%(件/年)]
1986-1991(6)	50[54.9](8.4)	41[45.1](6.8)	-	91[100](15.2)
1992-1996(5)	73[65.8](14.6)	38[34.2](7.6)	-	111[100](22.2)
1997-2004(8)	111[24.4](13.9)	65[14.3](8.2)	279[61.3](34.8)	455[100](56.9)
2005-2013(9)	29[11.6](3.2)	20[8.0](2.2)	202[80.4](22.5)	251[100](27.9)
計	263[29.0](9.4)	164[18.1](5.9)	481[52.9](17.1)	908[100](32.4)

()内は年間

最終的に対象を秋田県横手市、山形県金山町、福島県三春町の3自治体を典型自治体の候補として抽出した。

本研究から得られた知見は継承型住宅の取り組みに着手することにおいて①現在行っている取り組みと連携し継承型住宅を取り込み、地域の特徴を活かすこと、②フローからストック社会への移行により既存ストックの有効活用や循環としてリフォーム事業等の住宅施策と連動し合理性を図ることの2点である。

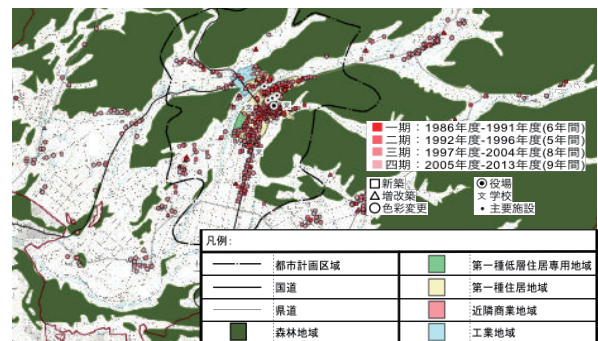


図 1. 金山町の取り組み動向

現在の地方自治体は、地方創世へ向けて様々な取り組みを行っている。そこで今後の取り組みの発展へ向けて、体験住宅への宿泊や移住へ結びつく取り組みを継承型住宅の取り組みに結びつけて提案していくことが有用と考える。また行政と住民の景観ビジョンを一致させることで、取り組みへの住民参加の促進になるのではないかと考える。

国土交通省観光庁では、地域固有の資源を新たに活用し体験型・交流型の要素を取り入れたニューツーリズムの振興を図っている。ニューツーリズムの一つに酒蔵ツーリズムがあり、地域活性化につながるものと期待されている。また、国土交通省建築物ストック統計によると、非住宅における工場・倉庫の建築物ストックは非住宅全体の約43%を占めていることが分かる。酒蔵では、酒造技術が機械化し、人と空間を多く必要としていた作業は省力化、省スペース化されている。また、近年では少量の高級な酒を作る傾向にあり、使われなくなった酒蔵が多く存在している。

しかし、リノベーションを行うにあたって日本酒と無関係な用途に転換するだけでは日本酒に親しみを持ってもらえる機会を与えにくい。日本酒に親しみを持ってもらえるためには、新たに興味を持たせる仕掛けが用意され、且つ、気軽に立ち寄れる施設が望ましい。以上の背景と考えを踏まえ、建築物ストックとして存在している蔵とその周辺の地域資源に着目し、新たな観光資源としての活用方法の提案を行う。

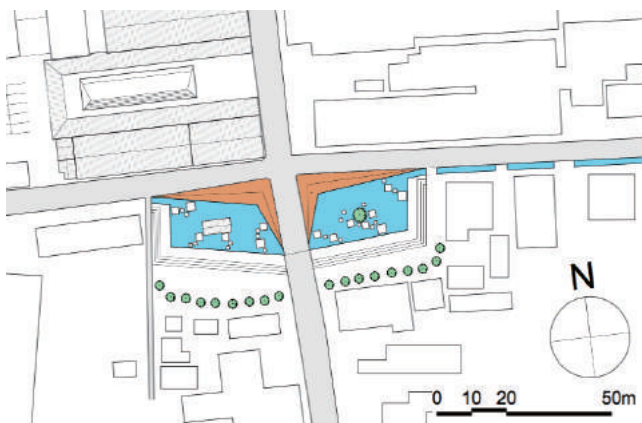


図1.対象敷地

対象敷地は、秋田県潟上市飯田川地域にある小玉醸造株式会社とする。酒造りにおいて重要な地域資源である水と、小玉醸造の創業家である小玉家が、以前に奥羽本線羽後飯塚駅や郵便局銀行出張所の誘致、耕地整理を手がけ地域の振興に尽力していったことから、地域と密接に関係している水と蔵を用いてコンセプトを「まちに開く蔵」とする。

本設計では、酒造技術の近代化により増えた建築ストックである蔵と水で、まちに開いた蔵の提案を行った。しかし、まだ小玉醸造周辺に点在する蔵や小玉家住宅といった他の観光資源との関係性について検討の余地がある。観光客のみならず、地域住民もレストラン、ショップ、親水空間などを日常的に利用し、日本酒を身近に感じる人が増え、良い景観と共にさらにまちに活気が広がっていくことを期待する。

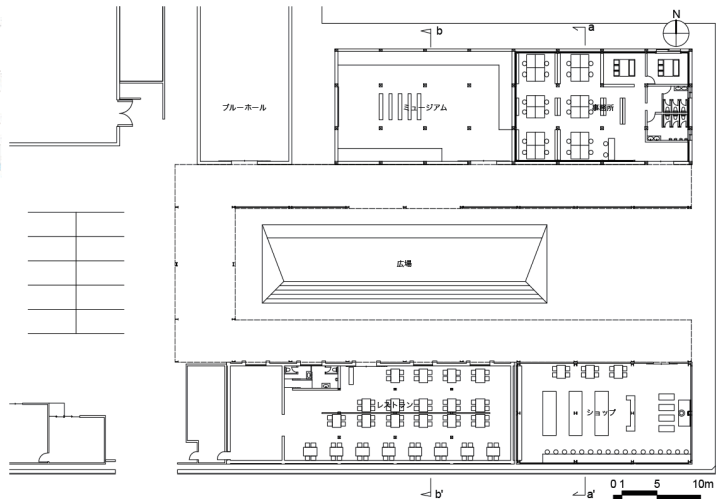


図2.平面図

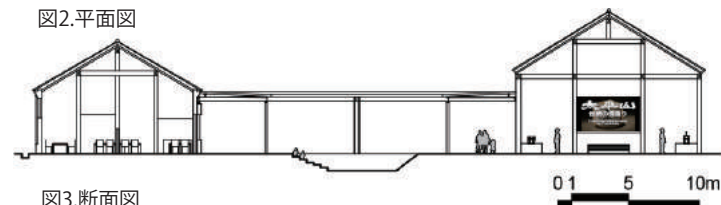


図3.断面図

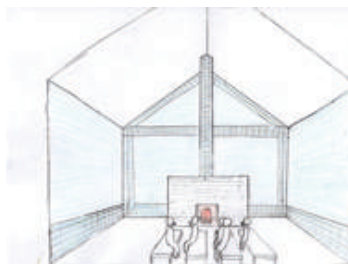


図4.ショップ



図5.広場

New members

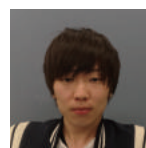
今年度から都市アメに加わった
院1年生2名、4年生1名を紹介します!



- ①勝山和弥
- ②岩手県山田町
- ③おかれた立場と環境の中で、自分の役割を果たす



- ①田口真也
- ②秋田県秋田市
- ③99%の努力は当たり前、1%のひらめきを探す



- ①泉谷悠太
- ②秋田県鹿角市
- ③社会に貢献できるような研究活動をしていきたい

写真

- ①名前
- ②出身
- ③ひとこと

修士論文

活動基準原価計算を用いた自治体における全庁統合型時空間地理情報システムの導入効果予測 ～A市を事例として～

鎌倉卓史 指導：浅野耕一

全庁統合型時空間地理情報システム（以下、時空間 GIS）は、リスク対応型地域管理情報システム（RARMIS）コンセプトを基本として構築された。庁内でデータの整備・更新体制を整えて共用することで、重複投資・重複更新を避け、コストを削減することが可能となる。時空間 GIS 導入後はユーザーの要望に応えながら機能面強化を続けることで、システムの更なる操作時間短縮効果や便益効果を期待できる。

近年は、自治体の財政的事情から GIS を導入することによる業務経費削減効果が特に重視されるようになった。先行事例である Y 市では、時空間 GIS の導入時に求められたのは、主に紙ベースからのスムーズな移行であった。しかし、A 市の場合は、時空間 GIS 導入後の直接コスト削減効果が求められた。そこで本研究は自治体へ時空間 GIS 導入の直接コスト面での効果に対する定量的評価を目的とする。

GIS を導入していない、または活用できていない部署では、例えば道路や土地の所管確認を行う場合、ブルーマップで地番を特定してから、法務局へ行き、公図を確認し、登記簿謄本で所有者を確認することが必要となるため手間がかかっていた。一方、管財担当部署では、GIS で土地の所有者を管理し、市民からの問い合わせに活用していた。

現状業務を把握するためのヒアリング調査を基に、業務にかかる活動量を費用で算出した結果、及び、現状業務の課題を検討した。他部署の情報を紙地図でもらうこと・紙地図の不明点の問い合わせに特に時間がかかっていた。通学路情報は様々な方面の部署で利用するが、共用化されておらず、各部署で数ヶ月をかけて通学路情報を整備していることがわかった。時空間 GIS を導入し、共用体制が整うと、市職員が通学路情報をデータ化する手間が省けることがわかった。GIS 導入後の運用体制の下で、業務の活動時間がどれだけ削減でき得るかを推計した。時空間 GIS を導入した場合のコストと、導入しなかった場合に継続されるコストを推計し、累計値を合計したところ、10年目にペイバックできる見込みとなった。

時空間 GIS 導入で、作業が比較的増える部署は、建築確認担当部署に家屋形状の入力を依頼するケースであった。しかし、当該部署が家屋形状の入力を行なえなくとも、1年ごとに更新される固定資産税担当部署の家屋形状を共有化することで代用可能である。時空間 GIS 導入で得られるであろう便益効果を考察し、直接費と間接費を合算したときの、導入効果を考察した。直接コスト以外の便益効果も含めれば更に大きな効果となるため、早期に導入することが望ましいと言える。

表1.業務時間ごとの内部活動単位における時間短縮と頻度

既存GIS運用	担当部署	業務名	備考	短縮時間(分)	頻度(年)
○	管財	公有財産台帳管理 問い合わせ対応	所管確認	0	300
x	危機管理		後日アンケート調査実施予定	-	-
○	固定資産税	GISの家屋形状データ更新 課税業務(家屋) GISの道路線データ更新 都市計画区域データ更新 問い合わせ対応	土地総みで建設総務担当部署へ連絡	0 0 0 0 10	- - - - 30
x	広聴	陳情・要望の受付	建設総務担当部署へ道路の所管確認	30	30
x	住居表示	住居表示整備事業		0	-
x	市民SC	不法投棄情報の提供 災害後の対応	入力作業増加 入力作業増加	3分増加 3分増加	5 5
x	住民登録		後日アンケート調査実施予定	-	-
○	要援護者	民生委員担当区域管理 要援護者情報入力	導入後入力者が変わる。町内会長 導入後入力者が変わる	1280時間 0	3年に1回 -
○	ごみ集積所	ごみ集積所の新設・修繕 ごみ集積所の移設 ごみ集積所の廃止 転入者へのごみ捨て指導 問い合わせ対応	必ず住居表示を確認する 動物死骸の収集対応	30 0 0 10 0	10 100 - 10 -
x	廃棄物対応	不法投棄の問い合わせ対応 不法投棄マップの作成		60 5	30 80
○	森林情報	問い合わせ対応 農道舗装	道路関係、カラスの巢の撤去 通学路情報を使っている(仮)	60 160時間	5 1
○	法定外公共物	市道の認定・廃止・区域変更 市道用地の境界確認 市道証明の交付 幅員証明の交付 問い合わせ対応 法定外公共物の財産管理 法定外公共物システムの更新	合併前の地区ごとに更新。各部署からデータ受取	0 0 0 0 0 0 30	- - - - - - 1
○	公園	定期的な公園パトロール 問い合わせ対応	現地確認に地図を利用	0 60	- 5
○	道路維持	問い合わせ対応 定期的な除排雪計画	法務局へ行く 通学路情報を利用	60 160時間	20 1
○	道路占用物件	道路占用申請 市道路線データ更新	改良工事の確認 管理担当のシステムから引用	10 1	50 5
x	建築確認	建築確認の手続き 概要書の閲覧 道路情報閲覧システムの更新		10分増加 10 30	50 240 6
○	文化財	問い合わせ対応 埋蔵文化財の取り扱い	福祉・案内板の修復 土地の開発	10 0	10 -
x	学校教育	危険箇所一斉点検 問い合わせ対応 通学路情報の収集・提供・手直し 市民一斉除雪デー	ハチの巣駆除	60 30 60 60	1 5 1 1
x	消防指令	地番データ更新		10	10
x	消防総務	防火対象物件の査察 警防計画 消防水利の管理 住宅用火災警報機設置の聞き取り調査	水利選定のみを対象	0 60 30 10	4000 5 3年に1度500件 30
○	上下水道	GISの更新業務 問い合わせ対応		0 0	- -

卒業生からのメッセージ



鎌倉 卓史
株式会社 若鈴

今自分は、『Into the Wild』の主人公が一人でアラスカに旅立つ前のような、様々な気持ちが混じり合っています。皆さんと知り合いになれて本当に良かったと思っています。これから荒野へ入っていきます。(卒業する直前に出会った本より)



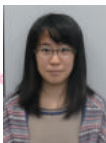
荒生 竜也
秋田県立大学院進学

研究室に配属してから、1年間半の研究室活動と研究活動のそれぞれでたくさんの経験をさせていただきました。私は同研究室の大学院に進学するので、研究室の一員として今後は一つ上の視点から活動していきたいと思っています。



池 隆裕
秋田県立大学院進学

都市アメに配属されてからは、研究を進めていく中で学内の人だけでなくOBOGや学外の人の支えを実感することが多かったです。本当にありがとうございました。これを読んでいる後輩は、日々感謝の気持ちを忘れずに!



天野 玲奈
株式会社 末永製作所



菅谷 美聖
トヨタウッドユーホーム株式会社



栗野 栞
UTコンストラクション(株)

研究室に配属された1年半で学んだ事は、やるべき事務的作業はその日のうちに終わらせること。やり忘れの心配がなくなり、以後計画的に作業を行えます。おススメです!先生方は1年半、3年生は半年ありがとうございました。

山口先生が教授に昇任されました。

県大に赴任した2007年4月以降、「大きな研究室」ではなく、「強い研究室」をモットーに、秋田の地で研究・教育・地域活動に取り組んできました。その内容は、N. L. やH. P. でご覧になっていると思います。初期に指導した学生たちは、その活動に随分と戸惑っていたようですが、こうして立派な研究室になっているのですから、方針は適正だったと振り返ります。

研究では、対象を東京等の大都市から東北6県の地方都市に変え、土地利用や歴史的建造物等の活用を中心に進めてきました。その中で、東北の多くの研究者との出会いや地域でまちづくりを進める方々との協働作業なども経験してきました。

研究とともに教育や地域活動に多くの成果を得た昨年度末、教授のポジションに着くことの連絡を受けました。教授としての矜持を持つとともに、引き続き研究・地域活動に秀でた「強い都市アメ研」づくり、東北に秋田県立大・建築ありと言われるような「多彩な研究・活動のできる計画学講座」づくりに取り組んでいきます。

山口 邦雄

浅野先生がご結婚されました!

おめでとうございます!
心よりお祝いを申し上げます。



都市アメ学生からささやかながら
お祝いのプレゼントです!!!

お別れの季節・・・2名の先生が転出されました。

高木先生ありがとうございました!!

平成25年4月に秋田県立大学の助教に着任してから3年、初めて暮らす本荘の町や日本海側の気候、そして、新しい職場環境にも慣れ、これから、秋田県立大学を拠点として、研究や教育の活動の場を少しずつ広げていければと考えていたところでしたが、平成28年3月末を持ちまして秋田県立大学を離れることになりました。

振り返りますと、短い期間ではありましたが、公私ともに数多くの新しいことに挑戦し、様々な経験を積むことができ、本当に充実した3年間だったと感じております。このように経験を積むことができたのは、建築環境システム学科の教職員、学生の皆様を始め、大学内外の多くの方々とお出会えたからだと思います。皆様も1つ1つの人との出会いを大切にしてください。

平成28年4月からは仙台に戻り、東北工業大学ライフデザイン学部安全安心生活デザイン学科の准教授に着任します。同じ東北地方の大学同士ですので、これからもどうぞよろしくお願ひ致します。



建築環境システム学科
建築環境学グループ
高木理恵

崎山先生ありがとうございました!!

建築・都市アメニティグループの崎山先生が平成27年度をもちまして転出されました。設計課題でのエスキス指導では、大変お世話になりました。教えていただいたことを今後の研究活動に活かしていきます。



建築環境システム学科
建築・都市アメニティ
グループ
崎山俊雄

新4年生の仮研究テーマ

安藤みなみ

秋田県内の大火復興による都市形成の研究

小島寛之

地方都市における集約型都市構造の閾値の研究

佐藤基

仙台市営地下鉄開業による都市空間の研究

須田一陽

大門本町通り沿道住民の建て替え意向の研究

泉谷悠太

GISを用いた平常時の空き家管理に関する研究

紙屋征邑

LCA支援ツールのLIMEプログラムの開発

東海林優介

子供にやさしいまち（都市政策指標づくり）

高橋千晶

GISを用いた災害時における建物被害情報支援に関する研究

土濃塚拓

子供にやさしいまち（都市政策指標づくり）

都市計画学会

今年も発表してきました!!

卒業式をひかえた3月6日(日曜)、都市計画学会東北支部の研究発表会に都市アメ研から荒生、栗野、山口の3人と経営学科から稲川研5人の計8人が参加してきました。

荒生と栗野は、第1会場に集まった都市計画を専門とする諸先生方や学生等(約40人)を前にして研究成果を発表し、学会らしい本質的な議論が展開されました。全発表終了後の懇親会では他大学の学生との交流の機会も得るなど、2人にとって貴重な経験となりました。



学会発表の様子



懇親会の様子

写真コレテスト

表紙の写真について・・・

京橋川(広島市)の右岸緑道に面したホテルのウッドデッキ。「水の都ひろしま推進協議会」が、河川利用の特例措置によって民間事業者の協力を得て実施しているオープンカフェの一つである。写真のような地先利用型とともに独立店舗型のバリエーションもあり、Urban Excellentな河川景観を創出している。(山口邦雄)

その他表紙には選ばれなかったもの・・・

景観紛争となったが、和布刈山(右奥)が見えるようにすることで決着、さらに最上階を市が買い取り、観光用に解放している。



長野県松本市
「縄手通り」



門司港レトロ地区と
門司港レトロハイマート

江戸時代の城下町松本の風景を再現したレトロな雰囲気のお店街。見て買って食べて楽しいスポットです。

OB・OGの今

都市アメニティ研究室のOB・OGの方々に近況報告や後輩への一言を頂いています。
今回は、10期生の先輩から……

都市アメのみなさん、都市アメ OB・OG のみなさん、並びにいつも都市アメの活動を応援してくださっているみなさん、こんにちは。都市アメ研10期生の木村洋子です。卒業後に自分がN.L.に参加するとは思っていませんでしたので、今回このような機会を与えて頂き大変うれしく思います。

私は現在、地元の設計事務所に勤務しており、主に官公庁の仕事をしています。私が今の会社に入社して初めて担当に入った物件は、廃校になった母校の高校の全面改修設計でした。現地調査では殺伐とした母校を見て、物悲しい気持ちになったものでした。でもお世話になった母校が生まれ変わるお手伝いできて感無量!とっていたのもいつのことか、CADデータのない母校の図面起こしには随分泣かされました。改修設計なので同じ図面でも現況図と改修図を用意するため、膨大な枚数を描きましたが、最初がそれだったのでちょっとくらいの改修設計なんてどん



と来いくらいに構えられるので良かったかなと思います。また去年は負け続けたプロポーザルで完全なごっつあん勝利を決め、その反省点の多さからたくさんの壁にぶち当たってなんとかまとまったところでした。つらいことや大変なことも多いですが、個人的にはプロポーザルや模型作りは楽しくて、これでお給料がもらえるなんていい仕事です。

大学生活は刺激や想像にあふれ、とても豊かな時間でした。ただ、大学生ならではの長期休みの過ごし方次第でもっとおもしろいことができたはずだと思います。社会人には二ヶ月の休みなんて早々訪れるものではありません。現役大学生の皆さんには、貴重な時間を、自由に、大胆に使って欲しいです。海外旅行とか、長期オープンデスクとか、短期留学とか、しがらみの少ない中でできることがたくさんあります、うらやましい!

最後になりますが、都市アメの活躍を、これからもN.L.を通して知ることを楽しみに、皆さんのご多幸とご健勝をお祈りしております。



10期生木村洋子

OB・OGの皆さんへ

都市アメからのお願いです。ぜひぜひ、OB・OGのコメントへご協力お願いします。連絡は山口まで。

UAEL 編集部
〒015-0055

秋田県由利本荘市土谷海老ノ口
秋田県立大学システム技術学部建築環境システム学科
電話:0184-27-2053 mail:yamaguchi-k@akita-pu.ac.jp
担当 山口 邦雄



ホームページで毎週のゼミの様子を公開中!!
<http://www.akita-pu.ac.jp/system/aes/amenity/>
(検索サイトから"都市アメニティ工学研究室"で検索)
NLのバックナンバーをHPからダウンロードできます



編集後記

0先ず、NL15号の作成に際し、ご協力頂いたみなさまに感謝申し上げます。
ONL作成にあたっては慣れないことばかりで苦戦しながらなんとか完成させることができました。
0今年は春に新メンバー3人も加わり、総勢13人のにぎやかな研究室となり、机の配置やパソコンのセッティングなどの大掃除から始まりました。新年度が始まって約1ヶ月が過ぎ、0研究活動にも徐々に慣れてきました。
これからも都市アメ研究室として、尚一層活発に活動するよう努力し、学校の内外へ0活動の成果を発信していきたいと考えております。今後とも宜しくお願いします!

<2016. 05. 18 NL編集部> 安藤 小島 高橋 山口邦雄